

「高齢者の低栄養を地域の健康課題として考える集い」

— 口から食べるために胃瘻を造るって本当なの? —

日 時 : 2009年10月22日(木)
午後6時15分~(2時間程度)

会 場 : 奈良女子大学 N202

奈良県歯科医師会では、今秋奈良県で開催されます第68回日本公衆衛生学会総会において、一般口演後の自由集會を企画いたしました。高齢者の食を考える他府県からの多くの職種の方々のご参加と、自由なご意見、ご発言をお待ちしております。

尚、日本公衆衛生学会総会の HP
(<http://www.secretariat.ne.jp/jsph68/>)
の自由集會のページをご参照ください。

《内 容》

高齢者の低栄養の問題は、これから高齢者の数・率ともに急増する日本において大きくなることは必至である。

一般には栄養管理は、軟食やきざみ食への移行によって経口摂取の継続に努め、経口摂取が何らかの事情で難しくなると経鼻経管栄養あるいは胃瘻造設により管理を行うのが常で特に胃瘻の急増が大きな問題となっている。しかし、経口摂取が優れていることについては国でも認められているところである。

高齢者の低栄養の解決については、胃瘻は外せないことも事実であり、更には経口摂取だけでは不足する栄養分を胃瘻で摂取するのが望ましい、即ち食べるための早めの胃瘻造設をとという意見もみられる。

また反対に、胃瘻を造るまでのプロセスが短絡すぎており、安易に行われているのではないかという考えもある。

今回の自由集會では、まず三人のシンポジストにより、それぞれ栄養管理の具体的事例について話題提供していただき、続いて会場の参加者間で自由に協議していただき、地域の課題として取り組んでゆくきっかけとしたい。

《シンポジスト》

- 松村雅彦先生 (医師) : 奈良医大総合医療学教室 (NST リーダー)
- 岡田有司先生 (管理栄養士) : 信貴山病院ハートランドしぎ栄養部
- 松下真一郎先生 (言語聴覚士) : 奈良県心身障害者リハビリセンター